令和５年度　奈良県立大和中央高等学校　通信制課程　学校評価計画表

年度	令和５年度（中期計画２年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	・生徒の学習ニーズやライフスタイル等に応じた学習機会の提供　　・生徒の「学び直し」や不登校生徒等に対する支援
年度重点目標	(1) 自立した社会人となるための基礎形成を図る。　(2) 生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。　(4) 生徒の安全を守る取組を充実させる。 (5) 「命」を大切にする行動ができるよう、指導の浸透を図る。　(6) 働き方改革の推進を行う。

１　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校通信制課程では、以下のような生徒を募集し、入学者選抜を経て受け入れます。 １　「高校を卒業したい」という強い意志を持ち、真剣に学校生活を送ることができる生徒を募集します。　２　通信制で学ぶ基本となる「時間の管理」ができる生徒を募集します。 ３　卒業後の進路目標や目的意識を明確に持ち、「自学自習」ができる生徒を募集します。　４　自己を高め、個性を大切にし、一人ひとりの違いを認められる生徒を募集します。 ５　何事にも、こつこつと粘り強く取り組むことができる生徒を募集します。　６　基礎学力が身に付いており、さらに学力を伸ばそうとする意欲ある生徒を募集します。
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校通信制課程では、「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、以下のような教育活動を行います。 １　自学自習がスムーズに行えるように、スクーリング（面接指導）で、学習の方法を丁寧に指導します。 ２　学校設定科目「数学入門」、「英語入門」では、基礎学力の定着を図ります。 ３　総合的な探究の時間「つどい」では、学習意欲、自尊感情、勤労観、自己表現力等の向上を図ります。 ４　日曜コースと平日コースを設け、自分のライフスタイルに応じた学びを設定できます。また、３年間での卒業も可能です。 ５　個別の「自学自習」を支援するために、毎週1回、生徒相談日を設けています。 ６　自学自習に適したレポートを作成し、丁寧な添削指導を行います。 ７　「生徒交流会」や「夏の風物詩」などの学校行事を、特別活動として認定しています。 ８　郷土を愛する心を育むことを目的とした、「生活文化の伝承」や「奈良ＴＩＭＥ」では、探究心を高めると共に地域と密接に連携した教育活動を行います。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校通信制課程では、以下の資質・能力を身に付け、７４単位以上の単位を修得した生徒に卒業を認定します。 １　社会的自立に必要となる生きる力、基礎的な学力、勤労観を育成します。　２　自尊感情を高め、互いの人権を尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ３　意欲的に学びに向かう力と、粘り強く目標に向かって努力する態度を育成します。　４　自ら考え判断し、計画的に行動できる力や自己管理力を育成します。

２　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（Ａ）	計画期間における具体的目標（Ｂ）	令和５年度末の目標値等（Ｃ）	令和５年度末の状況（Ｄ）	自己評価（Ｅ）	学校関係者評価（Ｆ）
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生徒と教員の望ましい人間関係の構築	・生徒または保護者との面談、教育相談を充実させ、生徒の状況把握に努める。	生徒または保護者との面談等を年に２回以上実施			
	食育の推進	・「すこやか通信」を配布し、生徒の意識向上を図る。	「すこやか通信」を年２回発行			
	不登校等の様々な問題を抱える生徒への支援	・保護者、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携を強化し、教員間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	職員研修を年に１回以上実施			
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたスクーリング	・週１回のスクーリングの指導内容を充実させる。	規定回数出席する生徒数の増加			
	学習意欲の向上	・自学自習の方法を理解させ、生徒の気持ちを学習に向けさせるように努める。 ・各科目の単位修得率を前年度より高めることができるよう、生徒へ丁寧に説明・指導する。 ・生徒のレポート作成の支援のあり方について研究する。	意欲的に自宅で自学自習に取り組むことができるレポート作成、 全ての教科でクラスルームにより生徒と情報を共有			
	ＩＣＴ教育の推進	・ＩＣＴを活用した指導方法の研究に努める。	スクーリングにおける電子黒板及びChromebookの活用に関する研修会の実施			
	働き方改革の推進	・業務の適正化、効率化等を図り、働き方改革を推進する。	業務の改善、効率化について、年に２回話し合う場を設定			
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	社会的自立に向けて、職業観の育成	・定時制や高進協、労働局との連絡を密にし、進路に関する情報を入手し、生徒に情報提供を行う。	就職希望生徒の80%以上に対する職場見学等を実施			
	産業界との連携の推進	・外部講師を招き、進路講演会等を実施する。	進路講演会等を年に複数回実施			
	キャリア教育の推進	・総合学習「つどい②」において、自己を見つめ、自立した社会人になるための生き方や将来について考えさせる。	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上			
４．地域と協働して活躍する人を育てる	コミニュティ・スクールの運営	・委員等との連携を密にしながら諸活動や行事への協力体制をとれるようにする。	学校運営協議会を年に複数回開催			
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	・「奈良ＴＩＭＥ」「生活文化の伝承」の指導内容の充実を図る。	「奈良ＴＩＭＥ」「生活文化の伝承」 授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上			
	地域に根ざした生徒会活動の充実	・地域の清掃活動や「順慶まつり」等の活動の活性化を図り、地域の方々との交流を深める。	地域での清掃活動や「順慶まつり」等の活動へ年に３回参加			
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習の充実	・人権ＨＲ、講演会、映画会の三本柱で人権学習会を実施する。 ・案内文書にＱＲコードを入れ、参加申込をしやすいよう工夫する。 ・生徒の実態に即した内容の学習会を実施するため、研修を行う。	人権講演会等を複数回実施			
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	・面談やアンケート等を通して、生徒の実態把握に努める。	いじめアンケートを複数回実施			
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の有効活用	・保護者、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携を強化し、教員間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	学期ごとに対象となる生徒の状況を全教員で確認			

３　評価結果の分析、今後の改善方策等